

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立兵庫小中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童(中学校3年生生徒)

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

##### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

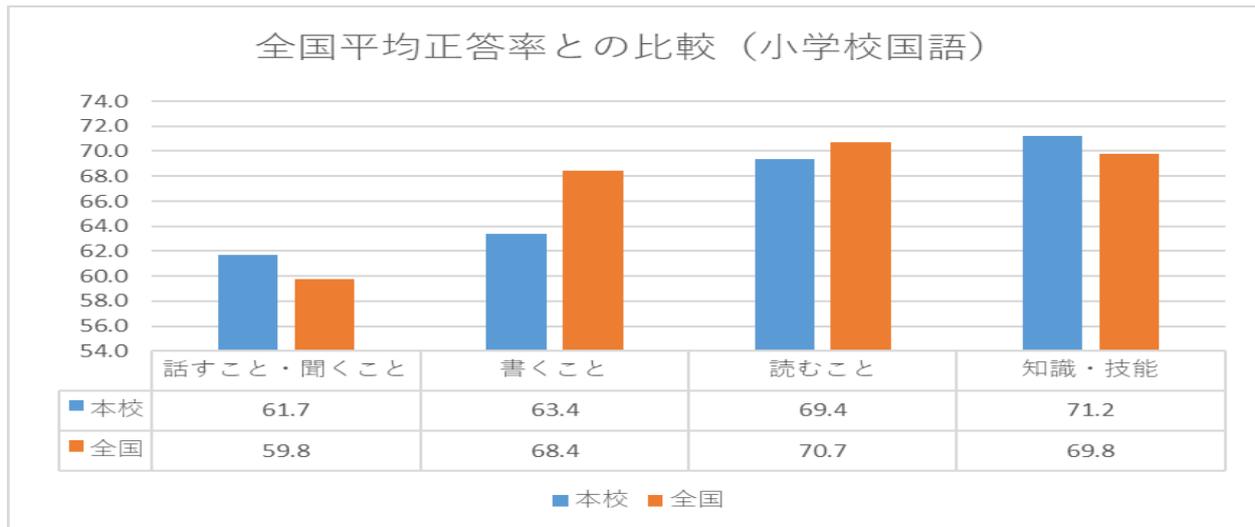
| 児童(生徒)に対する調査   | 学校に対する調査  |
|--|---|
| 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査<br>(例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査<br>(例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など |

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

「話すこと・聞くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。「書くこと」は、全国平均正答率を下回っています。また、同じく「書くこと」で無解答率が、全国平均を上回っています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均正答率を 1.0 ポイント上回りました。中でも、「我が国の言語文化に関する事項」では、全国平均を 2.3 ポイント上回りました。普段から、漢字や言葉の学習、お読書などに取り組んでいる成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率は、全国平均正答率を下回っており、無回答の児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

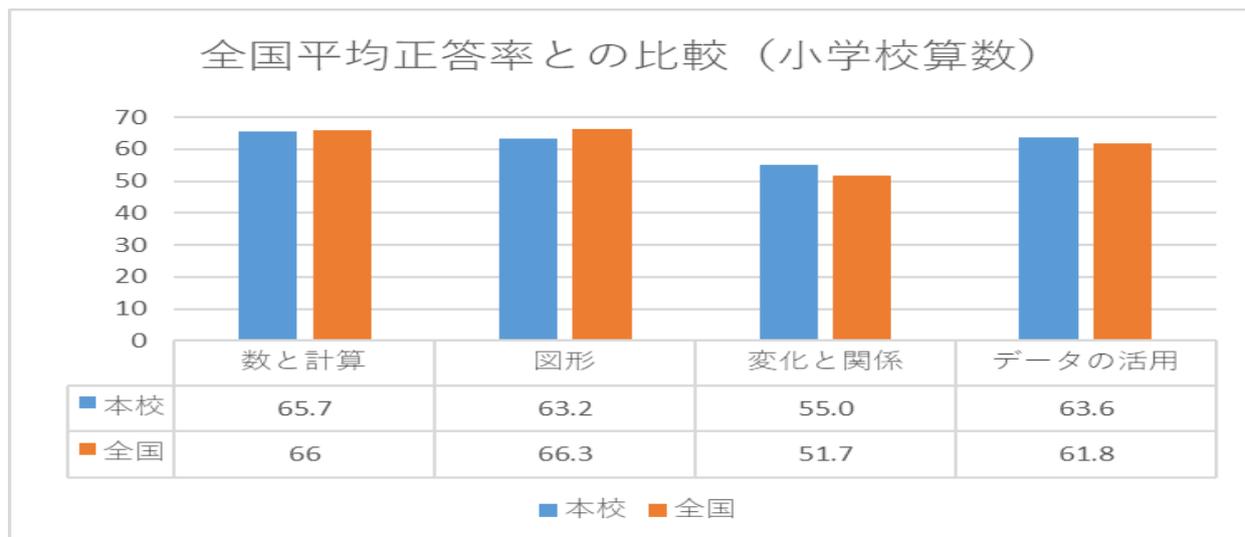
##### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること(主体的・対話的で深い学び)で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 図表やグラフを含めた複数の情報を関連付けて読み取り、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 言葉の意味、ことわざ等の学習では、辞書を活用して調べることで語彙力を高めます。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

##### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。高学年児童は、タブレット PC を活用した「佐賀市電子図書館システム」も活用しましょ。

## 2 算数(数学)



### (1) 結果

「変化と関係」「データの活用」は、全国平均よりも正答率が上回っています。無解答率については、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、記述式の問題の平均正答率が、全国平均正答率を上回りました。自分の考えを、式や言葉を使って論理的に書く機会を増やすなどの授業改善の成果が表れていると考えられます。しかしながら、無回答率は全国平均を上回っており、個人差が大きく見られます。

また、「数と計算」「図形」に苦手傾向が見られます。式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させることで、実感を伴った理解ができるようにすることが重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を行う際に、学習の場の工夫を行い、対話的で協働的な学びができるようにします。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。
- 高学年の児童は、タブレットPCを活用したデジタルドリルを活用し、予習や復習に役立ててください。

### 3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。  
 ≪生活習慣・自己肯定感・規範意識について≫

| 調査項目                                | 兵庫小 % | 全国平均 % |
|-------------------------------------|-------|--------|
| 朝食を毎日食べていますか。                       | 88.5% | 83.4%  |
| 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。                  | 35.3% | 39.7%  |
| 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。                 | 59.0% | 56.1%  |
| 自分にはよいところがあると思いますか。                 | 49.6% | 43.4%  |
| 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。         | 46.0% | 48.8%  |
| 将来の夢や目標を持っていますか。                    | 67.6% | 60.6%  |
| 人が困っている時は進んで助けますか。                  | 38.8% | 46.0%  |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。       | 72.7% | 79.5%  |
| 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつも相談できますか。 | 30.9% | 30.2%  |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。                | 72.7% | 71.1%  |
| 学校に行くのは楽しいと思いますか。                   | 41.0% | 47.2%  |
| 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。          | 26.6% | 30.3%  |
| 友達関係に満足していますか。                      | 56.1% | 62.4%  |
| 新聞を読んでいますか。                         | 1.4%  | 3.7%   |
| 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。         | 30.9% | 36.8%  |

起床時刻は定まっているのに就寝時刻が定まっていないのが気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

対人関係に満足している児童が少ないようです。地域との連携を図りながら、人間関係を深めることができるような活動に積極的に取り組んでいきます。

≪家庭学習の様子≫

| 調査の項目  | 兵庫小%  | 全国平均 % |
|--|-------|--------|
| 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」 | 7.9%  | 11.0%  |
| 「2時間以上, 3時間より少ない」                                    | 12.2% | 12.5%  |
| 「1時間以上, 2時間より少ない」                                    | 33.8% | 31.1%  |
| 「30分以上, 1時間より少ない」                                    | 24.5% | 27.0%  |
| 「30分より少ない」   | 16.5% | 13.0%  |
| 「全くしない」  | 5.0%  | 5.3%   |

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が4割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。高学年での家庭学習の時間の目安は、60分以上です。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

○学校では、児童の承認感を高めるために、Q-U検査結果分析を生かした学級経営を継続します。児童一人ひとりの役割を考え、出番を作り、承認することができる取組を工夫します。

※Q-U検査: 楽しい学校生活を送るためのアンケートのことです。(「やる気のあるクラスを作る」「いごちのいいクラスを作る」ために、児童一人ひとりの現在の状況を知ることができます。)

○家庭学習習慣を定着させるために、「家庭学習がんばろう週間」を設定して、計画的に学習する方法を身に付けさせるための取組をしています。

##### 【ご家庭では】

○規則正しい生活と家庭学習を定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、「褒める」ことで意識が更に高まります。

○地域の行事などに積極的に参加しましょう。ボランティアとして参加するのもよい経験となります。多くの人と関わり合っていく中で、他者理解や自己肯定感を高めていきましょう。